

# 飼料用米「夢あおば」栽培ごよみ（稚苗移植）

茨城県農業再生協議会  
茨城県農業総合センター  
令和2年1月作成

時 期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
作 業	耕起			播種準備			催芽 施肥・代かき 播種 移植			除草剤 散布			穂肥 病虫害防除						収穫			乾燥 調整			土づくり		
生育ステージ (5月下旬移植)				● 出芽 ○ 2.2~2.5葉期 ▲ 活着期			▲ 分げつ期			▲ 幼穂形成期			◎ 出穂期 (登熟期)			● 成熟期			● 収穫期→立毛乾燥								
水 管 理				▲ 浅水 (活着・分げつ促進)			▲ 中干し			▲ 間断かんがい			▲ 落水														

- ・堆肥の施用
- ・稲わらのすき込み
- ・耕深15cm以上の確保

## 収量・品質目標

粗玄米収量	680kg/10a
玄米水分	15.0%以下

## 品種特性

品種名	早晚性	草型	移植期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)	耐倒 伏性	耐病性		脱粒性	穂発 芽性
										縞葉 枯病	葉い もち		
夢あおば	早生	穂重	5.22	8.01	9.24	91	783	25.2	強	抵抗性	強	やや 難	中
コシヒカリ	中生	中間	5.07	7.25	9.03	92	592	21.5	弱	罹病性	弱	難	難

試験データ：茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室（龍ヶ崎市大徳町）平成26年～29年成績による。  
「夢あおば」は多肥栽培・遅植え、「コシヒカリ」は一般栽培・適期植えの結果。

### ● 施 肥

- ・総窒素量（基肥分+穂肥分）は「コシヒカリ」栽培のプラス5～6kg程度、穂肥重点の施肥体系とする。
- ・穂肥は倒伏防止のため、出穂前20日頃（幼穂長3～5mm）に施用する。
- 【例】窒素施肥量10kgの場合：基肥7kg+穂肥3kg、堆肥を利用する際には、その分基肥を削減する。
- ・リン酸およびカリ含量が十分な圃場では、基肥に低PK肥料、穂肥に硫酸等を利用してコスト削減を図る。（ただし、連年栽培による地力の低下に十分注意する）
- ・全量基肥肥料は早生用を使用し、分施肥系の総窒素量から10%程度減肥する（側条施肥では20%減肥）。

### ● 田植え

- ・5月中の移植が望ましい。それ以降になると収量が低下し、倒伏しやすくなる。
- ・株間は18～22cm、株当たり4～5本植え、植付け深度は2～3cm。

### ● 水管理

- ・2～3cmの浅水で活着・分げつを促す。
- ・有効茎を確保したら中干しを行い、その後は間断かんがいとする。
- ・落水は出穂後30日以降、用水が早期に止まる場合には直前に溜めておく。

### ● 種子の準備（種子量：10a当たり3～3.5kg）

- ・種子消毒の有無を確認し、必要に応じて薬剤や温湯消毒（60℃・10分）により種子伝染性病害の防除を行う。

### ● 育 苗

- ・5月上旬移植までは20～24日間、5月中旬以降の移植では15～18日間を基準に播種を行う。目標とする葉齢は2.2～2.5葉。
- ①浸種・催芽
  - ・浸種水温10～15℃（低水温は出芽不良を起こしやすい）
  - ・積算温度60～80℃（主食品種より短い）
  - ・催芽は28～30℃でハトムネ状態にする。
- ②播種
  - ・大粒品種のため、一箱当たりの播種量は乾籾で190g程度とし、適正な苗立ち数を確保する。
  - ・10a当たりの移植に必要な苗箱数は15～18箱
- ③播種後の管理
  - ・温度、灌水は主食品種に準ずるが、低水温のかん水に注意。
  - ・もみ枯細菌病が発生しやすい30℃を超える高温を避ける。

### ● 収穫適期

- ・コンバインへの負担が大きいため、走行速度を控えるか、刈り取り条数を減らすなど、生育量に合わせて作業する。
- ・収穫適期は、穂首近くに緑色を残した籾が穂全体の10%程度になった頃以降。
- ・立毛乾燥を行い、主食用米との作業調整と乾燥コストの削減を図る。（倒伏、穂発芽、鳥害等に注意する）
- ・採種時は、籾水分25%以下、回転数を15%程度落として収穫する。

### ● 乾燥・調整

- ・品質を考慮しないため、温度設定をやや高めにして乾燥効率を上げることも可能。（契約先の品質規格に注意）
- ・保存性を高めるため、仕上げの玄米水分は15.0%以下。
- ・大粒品種のため、籾摺りする際はローラー開度を調整する。
- ・種子は専用モードで乾燥し、籾水分14.5%以下にする。

### ● 出穂後の農薬使用に対する注意点

- ・出穂以降（圃場において出穂した個体が始めて確認される時点以降）に農薬を使用する際は、籾摺りをして玄米で給餌する。ただし、この措置を要しない農薬を用いた場合には、籾米もしくは籾殻を含めた家畜への給餌が可能である。